

資料13-1 環境に関する調査研究

○衛生環境研究所

調査研究課題名	発表時期	発表機関 (学会、雑誌等)	調査研究内容
し尿汚泥等の焼却灰からのリン回収技術について	H28. 2	第 30 回 公衆衛生技術研究会	し尿汚泥焼却灰からのリン回収技術について、平成26年度、現地にミニプラントを設置して実証実験を行った。 その結果、高い回収率で、リン酸カルシウムとして回収可能な技術であることが確認できた。最終回収物は、肥料取締法上の基準に適合するものであった。 また、実証実験を通じて実プラント運転における留意事項や今後の新たな研究の方向性が明らかとなった。
愛媛県特定希少野生動植物ナゴヤダルマガエル減少要因の検討	H27. 11	第 18 回 自然系調査研究機関連絡会議	県の特定希少野生動植物ナゴヤダルマガエルの減少要因として、水田面積の減少や栽培品種の変化に伴う中干し時期の前進化による幼生の干上がりなどが推測された。
特定外来生物ゴケグモ類の特徴と疑い種情報の同定結果	H28. 2	第 30 回 公衆衛生技術研究会	平成26年度の特定外来生物のゴケグモ類疑い種に関する県民からの情報件数は28件あり、その内3件がセアカゴケグモであり、他の25件は誤認情報であった。誤認情報は、同じ科に属し、形態が似ているヒメグモ科の種の7件が最も多く、次いで腹部の一部が赤いジヨロウグモの誤認が6件であった。
愛媛県特定希少野生動植物カスミサンショウウオの変態後の摂食について	H28. 3	愛媛県立衛生環境研究所年報第17号	カスミサンショウウオの室内飼育による生態把握を試み、変態直後の摂食選択性や成長の進み方などについての知見を得た。
愛媛県特定希少野生動植物ナゴヤダルマガエル減少要因の検討	H28. 3	愛媛県立衛生環境研究所年報第17号	県の特定希少野生動植物に指定されているナゴヤダルマガエルについて平成24年度から26年度まで調査を実施したが、個体の確認に至らなかった。 減少要因としては、水田面積の減少や栽培品種の変化に伴う中干し時期の前進化による幼生の干上がりなどが推測された。

調査研究課題名	発表時期	発表機関 (学会、雑誌等)	調査研究内容
愛媛県島しょ部における両生類無尾目の生息状況調査	H28. 3	愛媛県立衛生環境研究所年報第17号	平成24年度から26年度までの3年間の個体確認調査で3科6種の分布が確認され、ICレコーダーによる鳴き声調査では4科7種が確認された。
室内飼育によるコガタゲンゴロウの生態調査	H28. 3	愛媛県立衛生環境研究所年報第17号	コガタゲンゴロウの保全のための室内飼育による生態把握を試み、現地調査で必要な項目として、幼虫が生息する水域の水量の変化等が必要であることが明らかとなった。

○産業技術研究所

調査研究課題名	発表時期	発表機関 (学会、雑誌等)	調査研究内容
e-トラックの運行データの評価試験	H28. 6	愛媛県産業技術研究所研究成果展示会	<p>低炭素社会の構築に向けては、成長産業として期待される電気自動車等EV関連の技術開発に取り組む必要がある。また、同時に、EV化による部品数の大幅な減少から、その影響が懸念される自動車関連部品製造業や、新たな技術取得が必要となる自動車整備業界への支援のためにもEV関連の技術開発に取り組むことが必要である。</p> <p>そこで、産業技術研究所技術開発部を中心として、電動4tトラック（e-トラック）の実用化に向けて、地域の産学官が共同で技術開発を行い、実証運行データの分析を実施した。その結果、バッテリー・モータ等の仕様を最適化するための知見を得ることができた。</p>

乾式不織布製造法を用いた炭素繊維シート作製に関する研究	H28. 11 (予定)	平成 27 年度 愛媛県産業 技術研究所 業務年報	近年、炭素繊維強化プラスチック（CFRP）の使用量が急速に増加しており、県内でも炭素繊維（CF）を利用した製品開発を行う企業が増加しているが、CFRPは生産時に端材や使用済の廃棄物が多く発生するため、その再利用方法の開発が望まれている。そこで、紙産業技術センターが保有する乾式不織布製造技術を活用して、炭素繊維不織布シートの製造技術開発を行った。
-----------------------------	-----------------	------------------------------------	---

○農林水産研究所

調査研究課題名	発表時期	発表機関 (学会、雑誌等)	調査研究内容
高収益大規模有機栽培技術確立試験	H28. 3	平成 27 年度 愛媛県農林 水産研究所 試験成績概 要書（企画 環境部、農 業研究部）	<p>有機農業の大規模経営体育成を目指し、機械化が可能な「水稲-たまねぎ体系」で化学肥料や化学合成農薬を使用しない栽培実証に取り組んでいる。</p> <p>水稲では、4月～7月に移植する5作型で、乗用除草機と深水管理を組み合わせた除草剤を使用しない抑草栽培技術を実証した。また、たまねぎでは有機水稲収穫後の9月～12月に定植する5作型で、マルチ利用による有機栽培を実証した。</p>
農地土壌炭素貯留等基礎調査事業	H28. 3	平成 27 年度 愛媛県農林 水産研究所 試験成績概 要書（企画 環境部、農 業研究部）	<p>農林水産省が農地、牧草地を温室効果ガスの吸収源として位置づけ、日本国温室効果ガスインベントリ報告に反映することを目的に、全国の各都道府県試験研究機関が各地域の代表農地等の土壌炭素量や農地管理実態について経年調査している。</p>
	H28. 3	平成 27 年度 農地土壌炭 素貯留等基 礎調査事業 報告書（農 地土壌温室 効果ガス排 出量算定コ ンソーシア	<p>平成 27 年度は県下の東、中予地域の水田 8 地点における土壌深度 30cm あたりの土壌炭素量 (t/ha) について調査した結果、その分布幅は 43.5～95.8 で平均値は 65.2 であった。また、農地管理実態アンケート調査より、堆肥等の有機質資材を投入した水田で</p>

		ム)	土壌炭素量が高くなる傾向にあった。
--	--	----	-------------------

○農林水産研究所果樹研究センター

調査研究課題名	発表時期	発表機関 (学会、雑誌等)	調査研究内容
カンキツの施肥合理化に関する研究	H28. 5	平成27年度愛媛県果樹研究センター試験成績書	甘平、はれひめ等新しい品種における適正施肥量の検討、伊予柑において近年の気象条件に応じた施肥量の見直しを行っている。
有機質資材を活用したカンキツの少量施肥技術の開発	H28. 5	平成27年度愛媛県果樹研究センター試験成績書	温州ミカン、伊予柑において、各種堆肥類の窒素成分の肥効率を考慮した施肥量削減技術の開発に取り組んでいる。

○農林水産研究所林業研究センター

調査研究課題名	発表時期	発表機関 (学会、雑誌等)	調査研究内容
広葉樹林化技術の実践的体系化研究	H28. 3	第127回日本森林学会大会	スギ・ヒノキ人工林で、林分構造、広葉樹稚樹のサイズ・組成、周辺100haの景観構造、周辺1km <sup>2</sup> 以内の病虫獣害発生状況から環境と目標林型の関係等を解析する。

○農林水産研究所水産研究センター

調査研究課題名	発表時期	発表機関 (学会、雑誌等)	調査研究内容
漁場環境モニタリング調査指導事業（漁場環境管理調査）	H29. 3 (予定)	平成27年度愛媛県農林水産研究所水産研究センター事業報告	赤潮、貝毒、酸欠等による漁業被害を未然に防止することや、漁場環境の長期変動を検討するデータの収集のため、水質・底質等のモニタリング調査を実施した。
漁場環境モニタリング調査指導事業（広域共同調査）	H28. 3	平成27年度漁場環境・生物多様性保全総合対策委託事業（瀬戸内海西部における有害赤潮等分布拡大防止）報告書	カレニアなどの有害赤潮プランクトンの発生から消滅に至るまでの全容を把握するため、周辺5県と共同で実施した。本県は、豊後水道北部海域で、有害プランクトンの生息密度、水温、塩分、栄養塩等の調査・分析を実施した。